

WEB版

耐久高校図書館だより

2017年10月

いつまでも暑いと言っていたら、いきなり涼しくなりましたね。
暑いときの読書もいいですが、やっぱり秋は読書の季節です。
このところ文豪が流行っていますが、そもそも文豪って何を指して言うのでしょうか。
それで、まず広辞苑を開いてみました。

【文豪】ぶんごう 文章・文学にぬきんでている人。

文章・文学の大家。「明治の一」

なんだか自分が思っているイメージと異なります。この定義であれば大勢の人が当てはまるでしょうが、現代の作家にはあまり文豪と呼べる人がいないように思います。それで、インターネットで語句検索をしてみました。

すると、[ピッコロ百科事典](#) のサイトに、こんな説明が載っていました。

文豪

小説家の中でも、力量・人気ともに傑出した人物を指す。

主に明治・大正・昭和の物故の大作家がそのように呼ばれ、存命の作家、例えば村上春樹や筒井康隆、大江健三郎などは文豪とは呼ばれない。また、生前には人気作家であったが現在は忘れ去られた奥野他見男や村松梢風のような人物は文豪扱いされないし、現在は国民作家扱いだが生前は無名であった宮沢賢治もまた文豪と呼ばれない。



なんとなくしっくりきます。生きている人に対しては文豪と呼ばないとか、存命中に無名であった人にも当てはまらない、など、大体の定義をしてくれているので、ずいぶん幅が狭まりました。

今年注目の文豪は、生誕110年、没後80年をむかえた中原中也です。中也是詩人で、とても有名なものに「汚れちまった悲しみに…」や、「湖上」などがあります。全体にほんわりと明るく、人生を楽しんでいる印象が強くあります。詩集ですので、あっという間に読めますが、ひとつひとつじっくり味わいながら、そして口ずさみながら楽しんでほしい本です。

世界津波の日

2015年、国連で11月5日が世界津波の日と制定されました。津波災害について知識を深め、防災のための意識を高める目的があります。耐久高校の創始者は「稲むらの火」で有名な濱口梧陵翁で、以前から防災には力を入れて取り組んできました。図書館には防災コーナーがあり、濱口梧陵翁に関する本も揃えています。

津波が村を襲った際に稲むらに火をつけて村人を救った話は有名ですが、肝心なのはそのあとです。村が壊滅状態にあるとき、梧陵翁は私財を投じて村の再建をおこないました。その再建も、村人を雇用して賃金を支払って生活できるようにしたうえで、次の津波が同じように村を襲わないよう、長大な堤防を築くことも断行しました。そのおかげで、村人は飢えることなく、村を捨てて他所に移ることなく、生活を取り戻すことができました。

耐久高校では、この濱口梧陵翁の後に続けるような、志を持った生き方ができる人間になれるように、と願って「真・健・美」の校訓を定めています。皆さん、たくさんの経験と勉強で、高い志を持って人生を歩めるように充実した高校生活を送ってください。



と、話が大きくなりましたが、最近では集中豪雨や竜巻など、自然災害が多くなっているように感じます。毎年どこかで浸水被害や山崩れがあり、自分たちが住んでいるところが絶対安全とは言えなくなってきています。でも、昔の人は地名に災害があった記憶を残してきました。名前を付けられた場所を地図で確かめると、納得することも多いです。ぜひ、和歌山、有田の土地がどうであるのか、この本で確認してみてください。



カズオ・イシグロ氏

ノーベル文学賞受賞

イギリスの作家、カズオ・イシグロ氏がノーベル文学賞を受賞しました。昨年はボブ・ディラン氏であり、英語圏からの受賞が続いています。イシグロ氏の小説はとても読みやすく、世界中にファンがいます。耐久高校にも揃えていますので、この機会にぜひ読んでみてください。世界観が変わります。

